

第74回 国際人権に関する研究会
『国際人権理事会 普遍的定期的審査』 報告書

2012年12月5日、18時から20時まで、第74回「国際人権に関する研究会」が弁護士会館にて開催された。テーマは、『国際人権理事会 普遍的定期的審査』であり、2012年10月31日に実施された日本審査を中心に、リレー形式で報告があった。

まず、磯井美葉会員から、「UPRとは・日弁連の取組」と題して、国連人権理事会及び普遍的定期的審査（以下「UPR」という。）の制度一般の概要及び第1回審査からの変更点、並びにUPRの制度設計段階である2007年以降、日弁連が行ってきた意見表明や活動について報告された。

報告においては、第2回審査について、国内外のNGOのOHCHRに対する情報提供及びNGO間の意見交換の場等、市民社会の関与についても言及された。

次に、鈴木隆文会員から、「プレセッション・大使館ブリーフィング」と題して、UPRの審査前、審査中、次回の審査までの間にNGOとして実施することのできる活動を時系列に沿って報告した。

その中では、一般的な内容にとどまらず、他国のUPR審査に際してなされた各国代表の発言を参考に、親和性のありそうな国の大使館に対する事前の情報提供を集中的に行った結果、ある国の代表から期待していた内容の発言を引き出すことができたという経験も含め、今回のUPR審査のために自身が行った活動についても述べられた。

続いて、宮家俊治会員及び江口智子会員から、「個別の論点について」と題して、日本のUPR審査中における各国からの発言を会場で撮影された動画*を交えて報告した。

具体的な内容は、各国からの言及が多かった論点（死刑、移住労働者の権利、男女共同参画、女性の権利、子どもの権利、障害者を含む弱者の権利保護等）及び第2回UPRにおいて言及のあった新たな論点（君が代問題、ビラ配布による住居侵入による逮捕、イスラム教徒のスカーフ問題、インターネット上の名誉毀損の書込みの削除

* 審査の様子はUN WEB TVに掲載されている動画で見ることができる。

<http://webtv.un.org/meetings-events/human-rights-council/universal-periodic-review/watch/japan-review-14th-session-of-universal-periodic-review/1937911870001>

の基準、震災関連問題等)の他、全体として、ODA等における日本の国際的な貢献についての言及の多さ等であった。実際の映像を見ることにより、現場の臨場感を感じ、また、各国が限られた時間の中でコメントをしている様子を理解することができた。

質疑応答の時間には、在日大使館へのブリーフィングや、現地でのロビーイングの対象国を選定する手法等についての質問があったほか、UPRに参加された他のNGOの方にもご発言いただき、ロビーイングについての経験を共有することができた。

最後に総括として、大谷美紀子会員から、UPRが使い勝手のいい制度となるように日弁連がUPRの制度設計段階から携わってきたこと、今後の課題として、今回の第2回UPR審査での結果をどのように生かしていくかという問題に取り組む必要があるとの意見が述べられ、研究会は終了した。